

## 教 員 個 人 調 書

| 履 歴                       |  | 書 |  |
|---------------------------|--|---|--|
| フリガナ                      | ワタナベ ヤスノリ  |   |  |
| 氏 名                       | 渡邊 泰典  |   |  |
| 学 歴                       |  | 歴 |  |
| 年 月                       | 事 項  |   |  |
| 成 9年 3月                   | 東京大学経済学部経済学科 卒業 学士 (経済学)   |   |  |
| 成 11年 3月                  | 東京大学大学院経済学研究科修士課程 現代経済専攻 修了 修士 (経済学)   |   |  |
| 成 16年 3月                  | 東京大学大学院経済学研究科博士課程 現代経済専攻 単位取得退学  |   |  |
| 職 歴                       |  | 歴 |  |
| 年 月                       | 事 項  |   |  |
| 成 11年 4月                  | 日本学術振興会特別研究員 (DC1) (平成14年3月まで)   |   |  |
| 成 14年 4月                  | 関東学院大学経済学部非常勤講師 (経済学入門、数学入門、統計入門) (平成21年3月まで)                                |   |  |
| 成 16年 4月                  | 東京大学大学院経済学研究科拠点形成特任研究員 (平成18年3月まで)   |   |  |
| 成 18年 4月                  | 東京大学大学院経済学研究科拠点形成特任助手 (平成20年3月まで)  |   |  |
| 成 20年 4月                  | 駒澤大学経済学部非常勤講師 (ゲーム理論、福祉経済論、医療経済論) (平成22年3月まで)                                |   |  |
| 成 20年 4月                  | 特定非営利活動法人GBRC研究員 (平成21年3月まで)   |   |  |
| 成 20年 8月                  | 東京大学大学院経済学研究科特任研究員 (平成24年3月まで)   |   |  |
| 成 21年 4月                  | 多摩大学准教授 (現在まで)   |   |  |
| 学 会 及 び 社 会 に お け る 活 動 等 |  |   |  |
| 現在所属している学会                | 日本経済学会、Econometric Society、American Economic Association、Game Theory Society |   |  |
| 年 月                       | 事 項  |   |  |
| 年 月                       | 該当なし   |   |  |
| 年 月                       |  |   |  |
| 年 月                       |  |   |  |
| 賞                         |  | 罰 |  |
| 年 月                       | 事 項  |   |  |
| 年 月                       | 該当なし   |   |  |
| 年 月                       |  |   |  |
| 年 月                       |  |   |  |

| 教 育 研 究 業 績 書           |  |   |
|-------------------------|--|---|
| 平成 26年 3月 31日           |  |   |
| 氏名 渡邊 泰典 印              |  |   |
| 研 究 分 野                 | 研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド                      |   |
| 社会科学 経済学                | ミクロ経済学 ゲーム理論 組織の経済学 入札制度                 |   |
| 教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項 |  |   |
| 事項                      | 年月日                                      | 概 要   |
| 1 教育方法の実践例              |  |   |
| 1) プリント課題による発展的学習の実践    | 平成14年4月<br>～現在に至る                        | 経済学入門、統計入門、数学入門、ゲーム理論の各講義において、学期中に一度課題プリントを配布し、講義内容の確認だけでなく、発展的な課題への取り組みを通じて学生の理解の向上に取り組んでいる。   |
| 2) 表計算ソフトによる統計分析の実践     | 平成16年4月<br>～現在に至る                        | 統計入門の講義では、講義の進度にあわせ、統計局や日本銀行などで公表されている実際の経済データを用いて、表計算ソフトによる統計分析を実際に学生に行わせている。これによって、基本的な分析手法の実践を行うだけでなく、利用可能なデータに関する理解を深めることができる。                                  |
| 3) 教室実験の実践              | 平成20年4月<br>～現在に至る                        | ゲーム理論の講義では、講義の中で実際に学生に簡単なゲームをプレーさせている。これによって、実際にプレーを行う学生だけではなく、この様子を観察させることで周囲の学生の理解に役立てている。特に、各テーマの導入時に行うことでその後の講義の中で説明される理論の妥当性や限界について確認することができる。                 |
| 4) スライド資料の作成            | 平成21年4月<br>～現在に至る                        | 経済学原論、経済学入門、経済学の各講義では小規模の教室での議論を活発化するために、テキストの内容だけではなく議論の参考となるようなデータや図表などを含めたスライドを作成し、講義の教材とした。   |
| 2 作成した教科書、教材            |  |   |
| 1) 経済学入門                | 平成14年4月<br>～平成16年3月<br>平成20年4月<br>～現在に至る | ミクロ経済学、マクロ経済学を理解するためのプリントおよびスライドを開発し、講義中に配布して利用した。それぞれの経済理論に関する解説だけでなく、理解を助けるために必要となる数学的基礎や現実のデータなども併せて掲載し、総合的に学習できるように配慮している。プリントA4 40枚、スライド ミクロ経済学・マクロ経済学それぞれ600枚 |
| 2) 数学入門                 | 平成16年4月<br>～平成20年3月                      | 経済学で利用されることの多い最適化問題の分析手法を身につけるために必要となる微分を学習するためのプリントを開発し、区荻中に配布して利用した。中学～高校1年生程度の知識を前提とし、式の計算や方程式などから連続的に微分の学習まで進めるように配慮している。A4 30枚                                 |
| 3) 統計入門                 | 平成16年4月<br>～平成20年3月                      | 現実の経済を理解するために必要となる経済データの読み方、および表計算ソフトを用いたデータ分析の仕方を理解するためのスライド教材を開発し、講義中に利用した。代表的な経済データの所在や性質と初歩的な相関分析、時系列分析について融合的に学習できるように配慮している。スライド 160枚                         |

|   |                     |  |                      |   |
|---|---------------------|--|----------------------|---|
| 4) ゲーム理論  | 平成20年4月<br>～平成22年3月 | ゲーム理論を理解するためのプリントを開発し、講義中に配布して利用した。理論の解説だけではなく、練習問題や講義中に行う教室実験の概要やワークシートも掲載し、総合的に学習できるように配慮している。A4 50枚 |                      |   |
| 3 教育上の能力に関する大学等の評価<br>平成20年度学生による授業評価アンケート                | 平成20年4月<br>～現在に至る   | 学生による授業評価アンケートにより、講義内容、配布教材の作成、教室実験により理解の促進などの点で高い評価を得ている。   |                      |   |
| 4 実務の経験を有する者についての特記事項                                     |                     | 該当なし   |                      |   |
| 事項  | 年月日                 | 概要   |                      |   |
| 5 その他   |                     | 該当なし   |                      |   |
| 職務上の実績に関する事項  |                     |  |                      |   |
| 事項  | 年月日                 | 概要   |                      |   |
| 1 資格, 免許  |                     | 該当なし   |                      |   |
| 2 特許等   |                     | 該当なし   |                      |   |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項                                     |                     | 該当なし   |                      |   |
| 4 その他   |                     | 該当なし   |                      |   |
| 研究業績等に関する事項   |                     |  |                      |   |
| 著書, 学術論文等の名称  | 単著・共著の別             | 発行又は発表の年月  | 発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要  |
| (著書)  |                     |  |                      | 該当なし  |
| (学術論文)  |                     |  |                      |   |
| 1 組織構造と情報処理   | 単著                  | 平成11年3月  | 修士論文                 | 外部環境を確率的な不確実性で表現し、そのシグナルに基づいて行動する限定合理的なエージェントからなる組織を考える。このとき、外部環境の性質とエージェントの間の情報伝達経路の違いによって生じる組織のパフォーマンスを分類。  |
| 2 How Voluntary Organization Survives and How It Evolves? | 共著                  | 平成13年  | mimeo                | Okuno-Fujiwara, M., N. Suzuki, Y. Watanabe: ただ乗りや生産の固定費用が存在する状況における公共財の自発的供給の可能性について分析。協調的な行動を取ることによって非物質的な効用を得る経済主体が存在するときに、公共財を自発的に供給するグループが成立することを示した。モデル分析を担当 |

|  |         |           |   |   |
|--|---------|-----------|---|---|
| 3 Social Norms and Voluntary Provision of Public Goods             | 共著      | 平成13年     | mimeo                                     | Okuno-Fujiwara, M. N. Suzuki, Y. Watanabe: 公共財供給ゲームを繰り返しプレーする状況において、協調的なプレーヤーと長期関係を構築できるとして、自発的に公共財供給を行うという規範が安定的に存在するための条件をIndirect Evolutionary Approachを用いて分析した。モデルの構築と計算を担当 |
| 4 コーディネーション・システムとしての製品アーキテクチャ                                      | 共著      | 平成18年2月   | MMRCディスカッションペーパー, 2006-MMRC-67            | 奥野正寛、渡邊泰典: 製品アーキテクチャを、ユーザーの目的を達成するために部品間の複雑な調整を必要とする「製品システム」の設計思想として定義し、モジュール型アーキテクチャによって、(1) 製品機能が明確化され、(2) ユーザーの命令と動作の対応関係が明確化されることを示す。2節から5節まで概念のモデル化を中心に担当                  |
| 5 共同研究開発における情報共有   | 共著      | 平成19年3月   | RIETIディスカッションペーパー, 07-J-013               | 中馬宏之、藤村修三、川越敏司、松八重泰輔、奥野正寛、瀧澤弘和、渡邊泰典、横山泉: 今日の先端科学産業で見られるような、製品市場で競合関係にある企業同士が研究開発を共同で行うプロセスにおける企業の私的情報開示と研究開発努力のインセンティブを考察した。ダイナミック・ゲームのモデル分析を担当                                 |
| 著書、学術論文等の名称  | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称                       | 概要  |
| 6 コミットメントの単調比較静学   | 単著      | 平成19年5月   | MMRCディスカッションペーパー, 2007-MMRC-166           | Bajari and Tadelis(2001)で導入されたプロジェクトの不確実性と契約の不完備性を表すモデルを連続モデルに拡張し、単調比較静学による分析が可能になるための条件を導いた。   |
| 7 人工物の複雑化と製品アーキテクチャ  | 共著      | 平成19年11月  | 経済学論集第73巻第3号                              | 奥野正寛、瀧澤弘和、渡邊泰典: 製品アーキテクチャ概念の重要性が高まることになった背景を、人間と人工物の分業協業関係の展開と、その中で人工物の独特な複雑化という文脈の中で説明する。3節、4節、モデルの分析を担当   |
| 8 ネットオークションにおける評価額分布の構造型実証分析による推定                                  | 単著      | 平成20年1月   | 赤門マネジメントレビュー第7巻第1号                        | Paarsch(1997)の構造型実証モデルを用いて、潜在入札者数のデータを入手できないネットオークションにおける評価額分布の推定を行い、出品者の利得を最大化する留保価格の推定などを行った。   |
| 9 A Monotone Comparative Statics Result on Contract Incompleteness | 単著      | 平成20年6月   | Economics Bulletin, Vol. 4 No. 16 pp. 1-8 | Bajari and Tadelis(2001)で導入されたプロジェクトの不確実性と契約の不完備性を表すモデルをより一般的な状況に拡張し、単調比較静学による分析が可能になるための条件を導いた。  |
| 10 人工物の複雑化と産業競争力   | 共著      | 平成20年9月   | 一橋ビジネスレビュー第56巻2号                          | 藤本隆宏、大隈慎吾、渡邊泰典: 製品、工程、事業システムなど人間が設計する人工物は、ビジネス環境要因の厳格化や顧客要求の増大などの市場要因によって複雑化の傾向が顕著になっている。こうした「人工物の複雑化」の時代において、人工物とは設計情報が媒体に転写されたものであるという観点から、設計者がこの複雑化にどのように対応しているかを分析する。       |
| 11 組織におけるコミュニケーションとコーディネーション                                       | 共著      | 平成21年9月   | MMRCディスカッションペーパー, 2009-MMRC-275           | 奥野正寛、柳川範之、瀧澤弘和、渡邊泰典: 最適な行動の組み合わせが確率的に決定される環境におかれた2人の主体のコーディネーション・モデルにコミュニケーションを明示的に組み込み、コミュニケーション失敗の可能性がコーディネーション・モードの選択に与える影響を分析する。  |

|   |    |          |                         |   |
|---|----|----------|-------------------------|---|
| 12 Black-Scholes<br>Martingale Model: An<br>Algorithm Analysis        | 共著 | 平成22年3月  | 多摩大学グローバルス<br>タディーズ学部紀要 | Honobe, E., Y. Watanabe: マルチンゲールモ<br>デルに基づきBlack-Scholes-Mertonのオプ<br>ション価格評価モデルの計算を行う二つの<br>アルゴリズムを紹介し、実際のコードを用<br>いて効率性と頑健性を比較する。   |
| (その他)<br>1 Social Norms and<br>Voluntary Provision of<br>Public Goods | 共著 | 平成13年10月 | 日本経済学会2001年秋<br>季大会     | Okuno-Fujiwara, M. N. Suzuki, Y.<br>Watanabe: 公共財供給ゲームを繰り返しプ<br>レーする状況において、協調的なプレー<br>ヤーと長期関係を構築できるとして、自発<br>的に公共財供給を行うという規範が安定的<br>に存在するための条件をIndirect<br>Evolutionary Approachを用いて分析した。<br>モデルの構築と計算を担当 |